一暖房機器の安全な取扱いの推進 10月の広報

石油ストーブなどの 安全な取扱い

誤り、消し忘れ、過熱、使用中 の給油等となっています。 な原因は、可燃物の接触・落 る季節です。 ストーブ火災の主 の手入れは万全でしょうか。ス 下、引火・ふく射、使用方法の 本 トーブによる火災が多く発生す 油ストーブなどの暖房機具 格的な冬の到来に備え、石

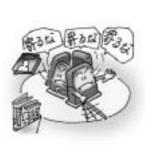
具を使用する機会が多くなりま 特に次の点に注意するよう心掛 す。火災を発生させないよう、 これからストーブなどの暖房器 寒い時期を迎えるにあたり、

けましょう。

使用にあたっての 注意事項

حے ど燃えやすいものを置かない ストーブの近くに紙や衣類な

ものを使用しないこと。 ストー ブの近くでヘアースプ レー 等の引火の危険性がある



干さないこと。 触しないように、それらのも ストーブの上方に洗濯物等を のから離して使用すること。 カー テンなどがストー ブに接

使 用 方 法



る場合は、火を消してから行 石油ストー ブに灯油を給油す

カートリッジタンク式のもの

ょう。

すること。 煙突は金属の支線等を使用し 確実に締めること は、給油後、タンクのふたを 全に消火していることを確認 就寝時、外出時には、 て固定すること。 必ず完

点検・整備を行い、故障して 暖房シーズン前には、 頼すること。 いる場合は販売店に修理を依 十分な

地震発生時の 出火防止

地震が発生したときは、 出火防止の行動に移りましょ 確保し、揺れがおさまってから ーブルの下にもぐったり、家具 び出したりせず、丈夫な机やテ ばなりません。慌てて屋外に飛 から離れるなどして身の安全を 落ち着いて身を守らなけれ まず

しょう。 け、いざというとき落ち着いて の対応として、次のことを心掛 地震が発生した場合の出火防止 道南西沖地震では奥尻島が火災 適切な行動がとれるようにしま による被害を受けました。 とがあります、平成5年の北海 地震の後に火災が発生するこ

グラッと来たときです。 揺れが のチャンスは3回あります。 1 のお湯などで火傷をすることが 大きくなってからの消火は、 1回目は、地震の揺れ始めの 地震が起きたとき、初期消火 初期消火

ましょう。 を第一にし、揺れがおさまって ときです。大きな揺れの最中は から火の元を確認するようにし 火を消そうとせずに、身の安全 2回目は、揺れがおさまった

できます。 は消火器などで十分に消すこと し火事になっても、初期のうち 3回目は、出火直後です。

2、通電火災を防ぐ

3、ガス漏れを防ぐ 電気のブレーカーを一旦遮断 電後、転倒器具がないか確認し、 いていくようにしましょう。 通 ブレーカーを戻しましょう。 地震等で避難するときには、 電気器具のコンセントを抜

空ける時には、元全を締めまし 進んでいますが、念のため家を するマイコンメーター の設置が ら、自動的にガスの供給を停止 地震の大きな揺れを感知した

あるので危険です。

過信するのは禁物です。なんら 動消火装置が付いていますが、 小さいうちに消火しましょう。 かの原因で、対震自動消火装置 して出火したら、慌てず、火が ます。 もし石油ストーブが転倒 が正常に作動しないことがあり 消火器の使用が効果的です。 最近の石油ストーブは対震自 石油ストー ブの対処

統 火は見てる あなたが離れるその時を 一標語

